

# 明治維新という《過ち》から何を学ぶか ―グランドデザインを描けない社会は崩壊する

作家 原田伊織  
はら だ 伊 おり

- \*テロルを内包した維新
- \*明治精神への回帰の意味
- \*「過ち」から何を学ぶのか
- \*関ヶ原の怨念が原動力
- \*内戦ではなくクーデター
- \*江戸の全否定で正統化
- \*不自然な天皇原理主義
- \*腐敗に満ちた明治新政府
- \*吉田松陰という虚像
- \*近代化の方向を間違える



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は、作家の原田伊織さんにおいていただきました。ロングセラーになっております『明治維新という過ち』という本でご存じの方がおられるかと思えます。今年には明治維新150年ということ、保守層といえますか、安倍さんの周辺の方たちがこれをたいへん喜ばしいことだということで何かイベントをするような話もあります。そういうことであれば、明治からの近代国家がどこで間違えたのか、あるいは出発点に問題があったのか、さまざまにも検証しなくてはいけない。原田さんはそういう思いでいろいろの本をお書きになっておられるわけで、別に左翼でも右翼でもございません。事実を事実としてきちんと検証する。これが一番大

切なことでございますので、そういう目で改めて明治維新というものをどう考えるかということとを今日はじっくりお聞きいただきたいと思えます。

それでは原田さんよろしくお願いいたします。（拍手）

## テロルを内包した維新

**原田** 今お話しがございました「明治150年」ですが、これは当初明治150年ではなく、内閣府では明治維新150年ということでスタートしていたはず。それが「維新」をつけるとちよつといろいろ塩梅が悪いと気づかれて、「維新」を外した。そして、明治と改元されてから150年ですよとなった。これだったら文